令和８年７月１０日

第６４回こどもの交通安全大会

皆さま、こんにちは、久留米警察署長の那須でございます。
「第６４回こどもの交通安全大会」の開催に当たり、警察を代表いたしまして一言、ご挨拶を申し上げます。
この度、栄えある表彰を受けられます１５校の小学校代表の皆さん、本日は誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。
また、ご出席の保護者、教職員の皆様におかれましては、日頃から児童の見守り活動をはじめ、警察活動各般にわたり多大なるご理解とご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。
誠に、ありがとうございます。

さて、皆様もご承知の通り、交通事故は、ほんの一瞬の油断や不注意から、かけがえのない命を、突然、奪ってしまいます。
残念ながら、今もなお痛ましい交通事故は後を絶ちません。
福岡県内におきましても、登校中の小学生の列に車が突っ込む事故や、今年１月には、自転車に乗っていた小学生２人が車にはねられ、１人が尊い命を落とし、もう１人も重傷を負うという、本当に胸の締め付けられるような悲惨な事故が起きています。

未来ある子供たちの命が理不尽に奪われてしまう。
この痛ましい現実を前に、私たち警察は、「何としても、地域の子供たちを交通事故から守り抜かなければならない」と、強い使命感と決意を新たにしているところであります。

ここで、本日表彰を受けられた小学生の皆さんに、私から大切なことをお話しします。
皆さんは学校の最上級生として、日頃から自ら進んで交通安全の活動に取り組み、命の大切さを下級生たちにも示してくれており、その真剣な姿勢が本日の表彰につながっています。

皆さんは、周りの子供たちや、私たち大人にとっても立派なお手本となっています。
そんな皆さんに、私から一つお願いがあります。
６年生の皆さんは来年、中学生になりますね。
そうなると、行動範囲もぐっと広がり、自転車で遠くまで出かける機会もさらに増えることでしょう。
だからこそ、「自分は慣れているから大丈夫」という油断は、絶対に持たないようにしてください。
交通事故は、慣れてきた頃、ほんの一瞬の隙を衝いてやってきます。
見通しの悪い交差点では、「ひょっとしたら車が飛び出してくるかもしれない」と危険を予測し、必ず自分の目でしっかりと安全を確かめる習慣を、身に着けて下さい。
そして、自転車に乗るときには、「必ずヘルメットをかぶること」。
ヘルメットは皆さんの大切な頭、命を守る盾になります。

１年生をはじめとする下級生たちは、最上級生である皆さんの姿を本当によく見ています。
皆さんが交差点でしっかりと「立ち止まる姿」や、「正しく自転車に乗る姿」を見れば、下級生も必ずそれを真似します。
皆さんの正しい行動一つ一つが、下級生の命を守る「最高のお手本」になります。
これからも、学校の交通安全のリーダーとして、同級生や下級生に「一緒に気を付けよう」と声をかけてあげて下さい。
皆さんのその行動が、誰かの命を救うことになります。

次に、本日ご出席の保護者、そして教職員の皆様に申し上げます。
先ほど、「下級生は上級生の姿を見ている」とお話ししましたが、子供たちは、私達「大人の背中」をみて育ちます。
今回表彰された各学校の素晴らしい活動は、子供たちの主体的な頑張りはもちろんのこと、日頃から皆様が温かく支え、交通安全の模範となって導いてこられたご努力の賜物です。
皆様のこれまでの献身的なお取り組みに対し、深く敬意を表します。

子供たちの命を守るためには、警察、地域、学校、ご家庭が一体となって取り組んでいくことが欠かせません。

大人が正しい交通ルールの見本を示すことこそが、最大の交通安全教育です。

どうか今後とも、子供たちが安心して歩ける道路環境づくりや、通学路での見守り活動などに、引き続きのお力添えをお願い申し上げます。

警察といたしましても、関係機関と連携した通学路の安全点検や交通安全施設の整備、そして、悪質な交通違反に対する指導取り締まりに全力で取り組み、交通事故のない社会づくりに力を尽くしてまいります。

子供たちが毎日、笑顔で「行ってきます」と家を出て、無事に「ただいま」と帰ってくる。

そんな当たり前で幸せな日常を、皆様と共にしっかりと守り抜いていきましょう。

結びになりますが、本日ご出席の皆様方の益々のご健勝とご多幸、そして本大会を契機として地域の交通安全の輪がさらに広がることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

久留米警察署長

那須　重人